

の仕事に就きたいという気持ちが芽生えたことがきっかけです。当時は男女雇用機会均等法が施行されたばかりで、社会の中で女性がどのように活躍するかの道筋があまり立っていない状況でした。前例のないものを自分でつくっていく時代でしたので、成功も約束されていませんが、失敗することもないだろうと思っていました。

市長 自分自身の夢を実現するために、やりたいことを見つけてチャレンジするということは、とても勇気のいることですね。

田中 仕事をしていく中で、いろいろな人と出会い、そのネットワークの中で自分を成長させることができました。それが今日につながっていると思います。

新しい地方公共団体の役割

市長 現在、三重県経営戦略会議の委員を務めてみえますが、自治体組織の経営はどのように見えますか。

田中 今までの県や市は、どちらかという地域住民を先導していく存在で、決まった仕事を着実にやっていけば良かったと思います。今は、社会の考え方も変わってきましたし、人々の暮らし方も多様なものとなってきています。そして地域の中でも、さまざまな分野で活躍される方がたくさんいらっしゃいます。そんな中で県や市の存在、役割も変化してきていると思います。単に地域住民を引っ張っていくだけではなく、地域の中で活躍している皆さんを取りまとめ、コーディネートしていくような役割が求められていると思うのです。

市長 私たちが今考えていることなど伝えるべきことは伝えて、そしてそのことに対して市民の皆さんはどのようにお考えですかと、逆に受け止めることが必要ですね。

田中 そうですね。これからの地方公共団体は、自分たちの県や市が行っていること、地域で活



躍する人々、そして自分たちのまちの魅力などをPRしていく役割がさらに大きくなっていくと思います。県や市がメディアの役割をされる時代に入ってきているのではないのでしょうか。

市長 地域住民のみんなの力をまとめて、さらにそれをプロモーションしていくということですね。

田中 「月刊事業構想」の中には、1つの大きな柱として地域活性のページがあります。ここでは、地域をいかにつくっていくかという地域経営について、皆さんお話をされていますので、やはり主体が全員で共に動いていく、共に未来をつくっていくという時代にきていると思います。

市長 そうですね。市民参加とよく言われますが、みんなで公共的なところにも関わっていくことが普通になってきた時代ですね。

田中 そうだと思います。

市長 また、国の社会資本整備審議会の委員としても活躍されてみえますが、現在、社会資本整備やインフラ整備についてどのような議論がなされているのですか。



田中 里沙さん

津市出身。県立津高校から学習院大学文学部に進み、広告会社を経て1993年に宣伝会議入社。1995年から広告専門誌「宣伝会議」の編集長を務め、2007年から編集室長。企業の広報宣伝戦略やマーケティングトレンド分析を手がけ、行政や企業の広報宣伝のあり方をアドバイスしている。三重県経営戦略会議委員、国土交通省社会資本整備審議会委員、中央環境審議会委員などを歴任。